佳作

僕とお父さんの選手宣誓

岡山県 倉敷市立天城小学校六年　鏡原 快人

僕は、七月十五日に岡山市にあるシティライトスタジアムで開催されたＯＨＫ岡山学童陸上記録会に出場しました。この大会は、県内の小学四年生から六年生までがエントリーし、四種目を男女に分かれて競い合う陸上大会です。大会の二週間くらい前に、僕が所属している陸上クラブでコーチをしている小学校の先生から、この大会の開会式で選手宣誓をしてみないかと声をかけてもらいました。初め聞いた時はそんな大人数の前で自分に出来るのかな緊張するな、と思ったけど、せっかくのチャンスだったので「やります」とその場で言いました。

家に帰ってその事を両親に伝えるととてもおどろかれました。それはなぜかというと、お父さんが僕と同じ小学校六年生の時に、大会名は変わってしまったけど同じＯＨＫの陸上大会で選手宣誓をしてテレビに出たということを教えてくれました。僕はその話を聞いて、そんな偶然があるんだなとびっくりしました。おばあちゃんがその時の映像を探してくれてたので、家族みんなで見ました。所属しているチームはちがったけど、僕が大好きな陸上競技を同じようにお父さんもやっていたんだという事を知ってうれしい気持ちになりました。

そして迎えた本番当日。テレビカメラでうつされていたのでとても緊張しましたが、間違えずに練習どおり上手くできたと思います。スタンドでは、チームの仲間や他のクラブの友達、家族や先生が見ていてくれてすごく心強かったです。試合はというと、なんとか決勝に残ることは出来ましたが、自己ベストには、届かず、思うような走りとは言えなかったです。試合直後はとにかく悔しい気持ちでいっぱいでした。お父さんからは、

「試合に向けて自分のコンディションをベストな状態に合わせることは難しいけど、それを含めて陸上競技の面白さだと思うよ。」

と声をかけられました。

これから先、中学生や高校生になった時に、今よりもっと活やく出来る選手になれるように努力しようと思いました。まだまだ小学生の内に、走れるレースが残っているので気持ちを切り替えて頑張りたいです。

家に帰ってテレビをつけると夕方のニュースで選手宣誓の様子が放送されていました。初めてテレビ画面ごしに自分を見てなんだか恥ずかしい気持ちでしたが、周りのみんながよろこんでくれたことは僕にとって良い思い出になりました。